

高知市議会だより

9月定例会を振り返って

会派の意見

市民クラブ
継続する懸案事項から新たな課題まで、市執行部の姿勢を広範に質問

長尾和明議員は、児童教育・保育の無償化での副食費の保護者負担の考え方および深刻化する保育士不足と保育士の負担軽減について質問。また、高知觀光の魅力の発信や活性化、まんが文化の振興策として県出身のアニメ声優の活用を提案した。

岡崎邦子議員は、新築移転する秦中央保育園の進捗状況に関する質問。また、日本語指導が必要な外国人児童・生徒の現状、さらに文科省が全国の小中高教委員会へ直接送りつけた「放射線副読本」について市長の見解をといた。

深瀬裕彦議員は、誠和園の移管の課題、まちづくりの構想が市街化調整区域では制約を受け点や観光標語における用語の

◆夏休み中の小学校ブール開放について、安全を確保した上で再開を求め、市長・教育長から専門性のある監視員配置の予算を含め、再開に向けた協議を進めると答弁があつた。

◆子どものインフルエンザ予防接種への公費助成を提案。こと

介護保険運用基金が22億円も溜め込まれていることを指摘。今こそ市民に還元を!

個人質問には迫、島崎、はた、浜口、下本の5議員が登壇。

◆市職員のパワハラ事案に関して、市長にこれまで告発があった事例の再調査と再発防止へ向けて要綱の見直しを約束させた。

◆難聴の高齢者に対する生活支援と認知症予防策として、補聴器購入への助成を要求。市長は重要な課題との認識を示した。

平田議員は、地域猫対策に言及し、6月に視察した浦安市のアプリを活用した先進事例等を紹介し、不妊去勢手術の登録数を把握する事に加え、実際に捨てて猫が減少しているのか実数を調査すべしと言及しました。

福島議員は、違法な広告看板や広告塔の危険性について、実際に調査した現場の写真を用いて、一刻も早い撤去と広告主への行政指導を訴えました。管理

高橋裕忠議員が個人質問に立ち、浦戸湾の三重防護、中山間地域の風倒木の処理や管理職の病気休暇の実態など幅広く執行部の考え方を尋ねました。今後とも、皆さまから頂いた貴重なご意見を議会に反映させてまいります。

西森美和議員は新庁舎の窓口サービスが、市民の期待に応えるものとなつていないと指摘。基幹業務システムの再構築による総合窓口業務の拡充を要請し前向きな答弁を得ました。また、この情報システムの整備は行財政改革に直結するため投資効果を明確にするよう提言しました。

清和クラブ

今定例会では、建設環境常任委員会において高知市給水条例の改正に伴う新制度導入や指定避難所配備用携帯トイレの購入時行政手続きが公平で瑕疵がないか質問。また、公営住宅の使用料滞納者への調停手続きが公平で適正であるか確認しました。

使い方、指定管理者制度の運用で修繕費が指定管理料を圧迫している施設に関する課題、春野漁港活性化整備の状況について質問した。

岡崎豊議員は、悪化する財政状況を指摘し、健全化を促した。西敷地の利活用では市民を交え再検討するよう提案するも、市長は複合的な施設に固執する答弁をした。原点となる「正調よさこい」の継承と発信については「よさこいお宝展示会」の開催程度で価値を認める認識は低いと指摘した。

◆市長の道交法違反に関する給処分議案に対し、下元議員が、台風が迫る最中に市長が高知市を離れていたことこそ最大の問題だと指摘する討論を行つた。

◆昨年度決算に対し、細木議員が国保や水道事業で市民に重い負担を課していると反対討論。

◆市長の道交法違反に関する減額処分議案に対し、下元議員が、台風が迫る最中に市長が高知市を離れていたことこそ最大の問題だと指摘する討論を行つた。

懸案事項の解決を求める登壇◆高木妙議員は、入明立体交差側道の「高欄塗装工事」が30年度に施工されなかつた経緯についてただしました。執行部からは、環境省通知によるPCB塗料含有調査を行つてるとの説明であり、その結果を基に今後の安全対策について地域説明会を開催するよう求めました。

◆大久保尊司議員は、高齢者の車の運転を支援する「安全運転サポート車購入補助金」の創設について質問しました。

岡崎市長からは、安全運転サポート車の普及促進を図り、提案いただいた補助制度創設について新年度予算の中で協議していくとの答弁を得ました。

山嶽会

貴重なご意見を議会に反映◆高橋裕忠議員が個人質問に立ち、浦戸湾の三重防護、中山間地域の風倒木の処理や管理職の病気休暇の実態など幅広く執行部の考え方を尋ねました。今後とも、皆さまから頂いた貴重なご意見を議会に反映させてまいります。

川村貞夫議員はラオスにおける学校建設に長年取り組み、令和元年度の外務大臣表彰を受け援村への参画について、市長から直接、積極的に関わるとの答弁を引き出しました。

多選の弊害を市長に問う◆戸田二郎議員は、尾崎知事が多選の弊害を避け、国政に転身することを引き合いにし、市政のトップリーダーが長年務めることでの停滞やよどみ、マンネリ等の弊害をただした。岡崎市長は、南海地震対策の総仕上げなど自信をのぞかせたが、西敷地では複合的施設の建設を考えており、我々の会派とは真逆。

新こうち未来◆横山議員は、6月定例会に引き続き、観光行政やデジタルマ